

竹内和順
議員



● 自治体経営について ● 勝山市民総合文化祭について

一般質問

問 自治体を取り巻く環境は、引き続き厳しい状況が予想される中で、「住みたい・住み続けたい」と思ってもらえるまち、「選ばれる市」をめざし、人口を維持・増加させていくことこそが、持続可能な自治体になると考える。市の見解を伺う。

答 勝山市の特色ある教育や県内でもトップレベルの子育て支援策を充実する一方、特に子育て世代に対するアドバンテージが知られていないことから、PRを強化していく。また、新年度に向けて子ども医療費の対象年齢拡充や、IJUターンの促進に向けた住宅・通勤支援制度の創設なども検討しているが、実現の暁には、強力にPRしたい。

あわせて、市民の皆様への愛郷心や勝山市ゆかりの方のシビック・プライドの醸成・涵養に努める。こうした取組みを通じて「選ばれるふるさと勝山」となり、持続可能な運営が可能な自治体であり続けるよう全力を尽す。

問 勝山市民総合文化祭のオープニングセレモニーの参加者が少ない。勝山市の文化というものをアピールすべき場と考えるが、今後の市民総合文化祭の在り方について、市の考えを伺う。

答 今年のテーマは「人と人 未来へつなぐ 文化祭」とした。市広報で参加募集を行い、開催内容を周知した。今年はパンフレットを作成し、全戸配布してPRを行い、集客を図った。しかしながら、オープニングセレモニーの観客増にはつながらず、アンケート結果からも、「観客が少ない」などの意見をいただいた。そうした中で、若者の発表が増えたことが成果であった。また、小中学生の作品展場所の工夫など入りやすい雰囲気づくりに努めたところ、昨年より来場者がやや多いように思われた。

実行委員会でも、観客増のため新たな取組を模索しているが、なかなか目立った成果にはつながっていない。市としても芸術文化活動の一層の広がりを目指して支援を継続していきたい。

山田安信
議員



● 山岸市長が私的利益を優先し、法令等に違反して行った疑いのある公共用財産管理と公共工事について

一般質問

問 平成26年に市の工事で山岸正裕氏の所有地と、山岸氏が平成24年に取得した土地の間にある公共用財産（水路と里道）が埋められて機能を失い、この公有地を山岸氏が不適切に占有している。同工事で「付け替え」として山岸氏の所有地に水路と里道が設置されたが、私有地に新設した水路と里道は公共用財産（法定外公共物）ではない。しかも同工事で直線であった水路が三か所で「くの字」に曲げられた。

① 市長は市民オンブズマンへの回答で「事務手続きが完了しないまま公費で水路を付け替えたことなどは誤りであった」としたが、誰のどの行為が、どの法令に違反しているかと判断したのか。

② 市長は「工事費用は山岸正裕氏に負担を求めるとしたが、これは損害賠償請求なのか、どのような法的根拠で負担を求めたのか。

③ 市長は、区長要望と水路改良工事を知りうる立場にあり、この工事に関連させて水路と里道を付け替えさせよとと考えて、平成24年に土地を購入し

たのではないか。

答 ①事務手続きを進める中で結果的に地方自治法に定める「公有財産を譲り受け、交換することができない」に抵触することが判明し、交換ができなかったということになる。事務手続きが完了しないまま水路を付け替えたのは誤りであったため、撤去した水路の復旧及び新設水路の工事費用を山岸正裕氏に求める。

②顧問弁護士等とさらに相談していきたい。このような場合には、賠償になるケースもある。賠償となれば、議決等をふまえてその額を定めていくことになるかと思う。

③購入した三角地は、隣3軒の入口のため、三者で協議し、法定外公共物の払い下げを受けられれば、使い勝手がよくなるということですが、市に協議を行ったが、その話は進まなかった。

平成26年にちょうど水路の工事があり、これにあわせて出来るのではないかと判断が職員にあり進めた。そこが、不適切な事務につながっているということではないかと考えている。